

令和4年度森のキッズキャンプ
 体験の風をおこそう from うだ主催事業
 (企画運営：国立曾爾青少年自然の家)



1. 目的

自然のなかで思い切り遊ぶことを通して、生活のリズムを整え、自然への興味、関心を高める。

2. ねらい

- ①幼児に自然体験と生活体験を提供する
- ②幼児の自然環境を活かした運動遊びプログラムの実践の機会とする
- ③森林を場にした環境教育（自然にふれ、思い切り遊び、感じる）の機会とする

3. 実施日

- ①夏のキャンプ
令和4年7月9日（土）～7月10日（日）
- ②秋のキャンプ
令和4年10月22日（土）～10月23日（日）

4. 対象者

幼稚園・保育園 年長児

5. 参加者 / 募集定員

- ①19名 / 16名
- ②22名 / 16名

6. プログラム (要約)

幼児が主体的に自分の意思で遊びをつくる「森の自由遊び」を中心に実施した。はじめのうちはきっかけづくりとしてたき火などいくつかの選択肢を提示し、その遊びをしていたが、だんだんと豊かな発想で活動が派生し、森の中できのこを見つけたり、秘密基地づくりをしたりしていた。4～6人程度のグループで生活することで他者と関わる機会を作り、保護者から離れての宿泊、生活体験も重視した。

森の中から木や葉を集めてきてたき火をしたり、まき割りをしたり、木や枝で弓矢を作ったり、きのこを集めたりと、森の中を走り回って遊んでいたため、ホ

ームシクになるのではないかとというスタッフの心配は見事に裏切られ、夜はぐっすりと眠っている様子だった。

スケジュール

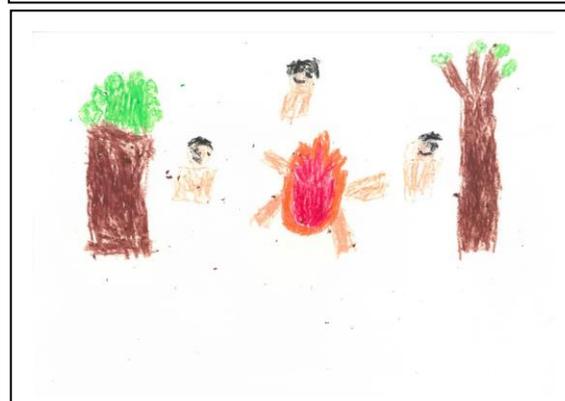
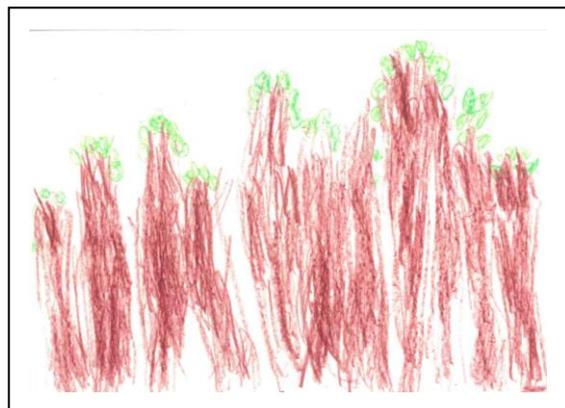
主なスケジュール	
1日目	はじまりの会 昼食（お弁当） 森の自由遊び 夕食（食堂） キャンプファイアー
2日目	朝のさんぽ 朝食（食堂） 森の自由遊び 昼食（野外炊事） おわりの会

7. 調査

事前と事後に絵をかいてもらい、その違いについて比較し、どのように体験が意識づけられているかを考察した。

①事例1 A児（男児）

- 上：キャンプ前に描いた絵
- 下：キャンプ後に描いた絵



事業前の絵に比べ、事業後の絵は木の幹や枝、葉の色など、木の様子がしっかり描かれるようになった。また、実際に体験した遊び（たき火）が描かれている。

②事例2 B児(男児)

上：キャンプ前に描いた絵

下：キャンプ後に描いた絵



空の様子や地面、キャンプ場の様子など、実際に見た表現に変わった。また、体験した火遊びについて描かれている。空の色もはっきりした絵に変化した。

③事例3 C児(女児)

上：キャンプ前に描いた絵

下：キャンプ後に描いた絵



事前の絵では木の様子や地面の様子、森の中の生き物など、絵本のような表現だったが、事後に描いた絵では実際に見た表現に変化した。

8. 保護者アンケートから

- ・「自立」「自発的に」「積極的に」が増えたと感じます。ちょっと怒られたらすぐに泣き顔になるのも減りました。
- ・行く前は不安そうにもしていましたが、帰った後は充実感に満たされた表情をしていました。自信をもつようになったのか、以前より自分一人で挑戦することが増えた気がします。
- ・お友達へキャンプの報告時も満足げで自己肯定感もあがったように思います。弟へは、「手伝おうか」「出来るよ」など、前向きな声かけが増えたように思います。
- ・今でも、時折キャンプのことを思い出しては「こんなことしたよ」と教えてくれます。今までそのようなことがなかったので、本当にこの子にとって大きな出来事だったんだと感じています。
- ・すぐに目に見える変化がなくても、この2日間の経験は、子どもの心を耕し、自信をつけることにつながったのではないかと思います。参加するまで、本当に大丈夫かななど親としていろいろ心配していましたが、子どもはたくましいですね。帰ってきて、とても生き生きと楽しかった話をしてくれる姿を見て、子どもの意欲と力を信じることの大切さに気付かせていただきました。
- ・「自分でできることは自分でやらな」という発言をしました。たとえば、保育園の上ばきを自分で洗いました。(今まで、洗い方は教えていましたが、「めんどろやからお母さんやっという」とか「今週は自分でやる」とか気持ちにムラがありました)そして、さらに自分で洗い終わったあと、「うまくできているか自信がないから、仕上げをしてください」とまで言っていました。不安や心配は大人に相談する形を本人なりに見つけられたのかなと思います。

9. まとめ

森の中で秘密基地を作る。たき火をしたり、竹や木を切ったり割ったりする。木の実やきのこを集める。こういった、普段の生活の中ではなかなかできないことを体験するという意識しながら事業を行った。保護者からのアンケートの中に、子供が自発的にいろいろなことに取り組むようになったと書かれていた。五感を使って全力で遊んだり、いろんな友達と一緒に過ごしたりして、様々な体験が子供の自信や成長につながっていると感じる。

子供たちの描いた絵を見ると、知識を与え、理解するより、実際に触れ、体験することが非常に重要であると感じる。これからも実際に体を動かし、やることで、子供たちの「できた」を引き出し、自信につなげていきたい。

(企画指導専門職 福島 茂樹)

●夏のキャンプのようす



●秋のキャンプのようす

